

1 学校の教育目標

- (1) 知育・徳育・体育の向上をめざし、未来を切り拓くたくましさを身につけた生徒の育成
- (2) 人権を尊重し、人と人とのつながりを大切にし、思いやりのある心豊かな生徒の育成
- (3) ふるさとに関心を持ち、ふるさとを愛し、地域社会に貢献しようとする生徒の育成

2 本年度の重点課題

- (1) 自ら主体的に学習に取り組む力を高める。
 - ①主体的な学習活動を促進し、協同学習の理念を活かしてともに学ぶ態度を育む。
 - ②学習規律を徹底し、自ら授業を改善する学習集団を育てる。
 - ③目標の自覚と客観的な自己認識を深め、他の生徒や教職員、種々のメディアを活用させながら自己の学びを調整する力を育む。
- (2) 日々の体験をとおして温かな人間関係を築き、自己有用感と自治的能力を高める。
 - ①学校教育全体を通じた人権教育を実践し、想像力と共感性を伸ばし、個の特性を認め、多くの人の立場で考え、自他共に大切にしようとする態度を養う。
 - ②生徒会活動や短学活を活かし、自己や集団を振り返り、改善しようとする態度を養う。
 - ③集団や地域に貢献できる活動に取り組みせ、自己有用感を高める。
- (3) 教育上の諸課題について、保護者や専門機関、地域との連携を深め、解決を図る。
 - ①長期欠席防止や特別支援教育推進において、保護者や小学校、地域との連携や、教育相談員・S C・専門機関等との連携を充実させ、推進者を中心に組織的で機敏な対応をする。
 - ②郷土芸能など地域の教育的資源を生かし、誇りと自信につなげる。

3 評価項目の達成状況について（教職員の自己評価より）

- A…十分達成されている（4点） B…達成されている（3点）
C…取り組まれているが成果が十分でない（2点） D…取組が不十分である（1点）

(1) 学習に自ら主体的に取り組む生徒の育成に努める。

自己評価 2.6 (R4 2.7 R3 2.9 R2 3.2 R1 2.8)

関係者評価 B

○主な意見（教職員）

- ・学年があがるほど、個人活動、ペア活動、グループ活動で積極的な姿が見られ、生徒アンケートにおいては「協同学習は有意義」との肯定的回答が90.7%と目標値（90%以上）を上回っている。
- ・授業研究会を継続的に実施し、学校として協同学習の推進に努めた。ロイロノートやデジタル教科書等のデジタルコンテンツの使用頻度もあがっている。
- ・生徒アンケートの「勉強はよくわかる」との回答が79.7%と目標値（85%以上）を下回っており、基礎学力の定着と家庭学習の充実をはかっていく必要がある。
- ・1年生の中に学習規律の徹底が不十分なクラスがある。

★今後の取り組み

- ・授業研究会において、協同学習の理念について学ぶ機会をさらに増やしていく。
- ・授業においては、なぜグループなのか、なぜ共有するのか、なぜ関わるのか、それぞれの活動の値打ちを生徒にしっかりと伝えながら実践するとともに、具体的な活動を通して生徒の成功体験を重ねていく。
- ・授業者は家庭学習と授業をしっかりと関連させ、授業が活動主義に傾斜しすぎ、書くことや基本用語の定着が軽視されていないかを常にチェックするよう心がける。
- ・学習規律に関しては、具体的な重点項目を設定（共通実践）し、職員全員でその徹底を図る。
- ・iPadを紙の代用品としてだけでなく、タブレット端末だからこそできることをさらに研究し、それを授業にいかしていく。

【関係者評価】（学校運営協議会委員の提言）

- ・2、3年生は年間を通して落ち着いて授業に取り組めており、3年生の姿が1、2年生の目指す姿になっているように感じる。1、2学期に落ち着かなかった1年生もかなり落ち着いてきていた。ただし、1年生の落ち着きのなさも教科や先生によって違っている面もあった。活動

が終わった生徒や理解が不十分な生徒への学校側の手立てが必要だと思う。

- (2) 体験をとおして温かな人間関係づくりを促進し、生徒自ら魅力的な学校づくりに取り組めるよう努める。

自己評価 2.9 (R4 2.7 R3 2.9 R2 3.2 R1 2.7)

関係者評価 B

○主な意見(教職員)

- ・生徒アンケートにおいて、「学校が楽しい」と答えた生徒が90.1%で目標値(90%以上)を上回っていた。
- ・生徒が主体となり様々な工夫をしながら生徒会活動を行うことができた。特に学校行事や生徒会企画では、運営をすべて生徒が行った。しかし、日常生活を自ら点検・改善するなどの自治的能力が十分に育っているとは言えない。
- ・人権作文や標語等、年間をとおしての取り組みができていた。特に、人権弁論は自分をしっかりと見つめた内容のものが多く生徒の心の成長につながった。しかし、普段の生活の中でもっと人権について考えさせる必要があると感じる。

★今後の取り組み

- ・各専門委員会において、日常生活の向上を意識させ、日々の生活を自分たちで点検・改善していく機会を増やす。そのために定期的に学校全体で課題を話し合うようにしていきたい。
- ・できるだけ教師が生徒のそばにるようにし、普段から言葉遣いや挨拶、礼儀、マナー等を意識させるはたらきかけを増やしていく。

【関係者評価】(学校運営協議会委員の提言)

- ・生徒会活動がしっかりしているのは素晴らしい。特に旧執行部の生徒が頑張る姿を、1、2年生が憧れの姿として見ていたからこそ、新執行部の活動につながっているのだと感じる。この執行部の生徒の思いを、日常の生徒会活動全体に広げてもらいたい。

- (3) 保護者や専門機関、地域との連携を深め、長期欠席への対応や特別支援教育の推進に努める。

自己評価 2.8 (R4 2.5 R3 2.9 R2 3.1 R1 2.5)

関係者評価 B

○主な意見(教職員)

- ・定期的な学年会で長期欠席の生徒または長期欠席の予兆がある生徒に関する情報交換がこまめにできるようになり、日々の生徒対応や保護者対応にもいかしている。しかし、個々の不登校に対して効果的な対策が見つからないことも多く、結局新規不登校者数が増加してしまっている。
- ・定期的な特別支援教育推進委員会の実施により、職員の共通理解を図りながらチームで生徒対応を行えている。
- ・1年生で郷土芸能の取り組みを熱心に行っており、地域の方との交流が十分にできていた。郷土芸能の学習をいかした校外での活動(水郷祭等)の場があったことも良かった。
- ・生徒アンケートの「町内の行事(運動会や祭り等)に積極的に参加している」の肯定的評価が72%で目標値(60%以上)を上回っていた。

★今後の取り組み

- ・不登校生徒の対処療法を考えるだけでなく、協同の理念を取り入れた授業を通した高め合える仲間づくりや各学級での人権学習を土台とした仲間づくりにさらに力を入れていきたい。また、不登校生徒については、学校復帰、教室復帰が最終目標だが、それだけでなく個々の生徒に応じた対応を保護者と共に柔軟に考えていくようにしていきたい。
- ・関わり合う中でしか自己・他者受容したり我慢したりする力は育たないので、増え続ける特別支援学級生徒と交流学級生徒とのインクルーシブ教育を進めていく必要がある。

【関係者評価】(学校運営協議会委員の提言)

- ・年度当初から不登校に対して課題意識を持って様々な取り組みを行っているが、なかなか効果が出ていない。ただ、現在の取り組みを続けることで必ず成果が出てくると思うので継続してほしい。また、減らす努力も大切だが、不登校生徒をどうサポートしていくのかということに力を注いでもいいのではないかと思う。

4 全体的な評価（教職員による評価、学校運営協議会委員の提言を合わせて）

結果 B

生徒や地域の実態をふまえて教育目標、計画を設定して実践を行ってきた。学習面、生徒会活動、人権教育、不登校対策、特別支援教育、地域との連携等、様々な面で多くの成果があったが、それとは別に新たな課題も生じている。コロナ禍の影響もあり、せまい人間関係の構築しかできない生徒の増加による協同学習への弊害、不登校生徒の増加等の問題である。今後、この問題の解決へ向けての取り組みは本校の早急の課題である。達成度が十分でない項目もあるため、総合評価はBとする。

5 評価をとおして明らかになった成果と課題（教職員による評価、学校運営協議会の提言より）

5月に新型コロナウイルス感染症が第5類に移行したことにより、学校行事もかなり平常どおり実施することができた。運動会、文化祭等の学校行事や生徒会企画は運営をすべて生徒が行うなど、主体的な生徒会活動の様子がたくさん見られた。今後は日常生活を自ら点検・改善するなどの自治的能力をさらに養っていきたいと考えている。例年実施してきた授業研究会を今年度も継続的に実施し、協同学習の推進に努めてきたが、コロナ禍の影響もあり、せまい人間関係しか構築できない生徒の数が増えており、協同学習におけるペア及びグループ活動等への弊害が出はじめている。また、この人間関係がつかれないという課題は不登校の原因にもなっており、その課題の早急な解決を図っていかなければいけないと考えている。また、学習規律の徹底が十分でないクラスがあり、様々な取り組みを行ってきたが、教師の指示自体が適切であるかどうかを検証する必要もあると考えている。これまで、実施回数が少なかった特別支援教育推進委員会と不登校対策委員会を隔週で定例化したことにより、昨年までより組織的にその対応にあたることができた。不登校対策のための学年会も定期的の実施し情報共有は充分に行えたが、個々の生徒に関しての効果的な対策を立てることができたケースはわずかであった。今後は、不登校生徒をどうサポートしていくのかということにも力を注いでいかなければいけないと思う。1年生の郷土芸能の取り組みを1学期にもってきたことで、地域行事である水郷祭に生徒が参加できたことは大きな成果であった。今後も継続していきたいと考えている。